

秋田県の能代市立能代第一中学校 佐藤 学 先生から、MEXCBTの利活用についてお話を伺いました。
 能代第一中学校は、夏休みや冬休み等の長期休業中の課題として、家庭においてMEXCBTを利活用され、生徒一人あたりの累計解答数も多くなっています。
 学年の実態に応じた課題の選定と配信や、学習進度の把握など、これまでの効果的な取組や工夫について主にお話を伺いました。
 ■■■学校HPのURL <http://icchu1.com/>■■■

活用の概要	<ul style="list-style-type: none"> 本校では、令和3年度より3年間、秋田県の「ICTを活用した授業改善支援事業」の研究指定校として、「ICTの効果的な活用」について全校一丸となって研究を進めてきた。その取組の一つとしてMEXCBTの配信問題を活用し、夏休みや冬休み等の長期休業中の課題として、タブレット端末を家庭に持ち帰って取り組んでいる。 各教科担当で課題を選定し、1、2年生は必修課題、3年生は学力向上のための自習課題として配信している。（右の図【①】【②】） (例) → 3年生には自習課題として「令和4年度全国学力・学習状況調査」の国語、数学、理科を配信した。 → 2年生には必修課題として社会と理科で「ちばのやる気学習ガイド」、国語と数学で「さいたま基礎学力定着プログラム」、英語で「やまぐち学習支援プログラム」の1学期の学習内容を中心に68個を配信した。 → 1年生は2年生とほぼ同様であるが、学習内容が少ないため、「全国学力・学習状況調査」の小学6年国語と算数の過去3年分を加え30個を配信した。 取組期間中は、各生徒の学習進度を常時把握することができた。 （右の図【③】）
生徒の反応	<ul style="list-style-type: none"> 長期休業中の課題に、タブレット端末1つで取り組めることから、抵抗なく取り組むことができた。 昨年度は、課題の量が少なく、物足りなさを感じている生徒もいたが、今年度の長期休業は各教科適度な分量になってきたようだ。
先生の反応*	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の相当量ある「全国学力・学習状況調査」の過去問題や自治体作成問題等から、基礎定着を図る課題を適切な分量で選定することが難しかった。 教科や問題によっては、受検対策として紙媒体に直接記述する方が、効果的なものもあると考えている先生もいる。
今後の活用	<ul style="list-style-type: none"> 今後も長期休業中の課題として活用を継続していくほか、感染症の流行による急な臨時休業期間の課題や不登校生徒の自習課題としての活用も検討していきたい。 他校の活用事例を参考として、普段の授業や朝学習、平日の家庭学習等に活用の幅を広げていくようにしていきたい。

【①各教科担当で課題選定】

テストグループ名称	テスト種別	状態
+ 3年夏季休業自習課題	● 自習	● 解答期間中
+ 2年夏季休業課題（必修）	● 必修	● 解答期間中

【②配信内容の例】

2022年7月8日～2022年8月25日
 必修
 2年夏季休業課題（必修）

テストを受ける テスト結果を見る

無期限
 ちばのやる気学習ガイド 英語 中学校2年生（ユニット15）感嘆文

無期限
 ちばのやる気学習ガイド 英語 中学校2年生（ユニット10）不定詞を使った文

【③学習進度の把握】

所属対象者				学習の進捗
氏名	クラス名	出席番号	学習の進捗	
秋田 太郎	2年4組	1	35/67 テスト完了	35 / 67 テスト完了
秋田 次郎	2年4組	1	4/67 テスト完了	
秋田 三郎	2年4組	2	33/67 テスト完了	

※ 文部科学省では、いただいたご意見やご要望を参考に、順次、MEXCBTの改善を進めています。